

講座

ころの友伝道入門シリーズ 10

五つの実際 その二

「ころの友伝道奉仕者としての生活設計」



日本キリスト教団
鹿児島加治屋町教会
(鹿児島)

まつだ じゅんこ
信徒 松田 潤子

1. ころの友伝道が私どもの教会で発足したのは1985年です。その当時は、生活設計を各人が立てていましたが、その後自然に消滅し、今では、それぞれの委員が担当求道者を覚えて、自分に適した方法で実行しています。例えば、祈りは、今年度は聖書通読が私どもの努力目標ですので、各人が朝また夜に行っている通読に合わせて、「信徒の友」の日毎の糧で聖書を学ぶ時に合わせたりして、求道者のために祈るようにしています。

2. 次に、求道者との接触については、以前から求道者宅への訪問のための時間を計画的に取るようなことはしていません。でも、求道者と接することは大切なことですから、現在新型コロナウイルスのため思うようにできなくても、教会での出会いのほか、できるだけ手紙、電話などを利用して、求道者と接してその状態を知るようにしています。ただ、電話は、ご多忙な方には遠慮しておりますし、お便りも、誕生日にカードを贈ったり、イースターやペンテコステの礼拝にお誘いのお便りを差し上げたりして、少しでも心に届くようにしています。電話を掛けたり、お便りを書くための時間は、特に計画的に取らなくても、求道者のために祈っていると、良い時が自然に与えられ

ます。

3. 求道者が礼拝に来られなくなることは私達の悩みです。しばらく様子を見る、お便りをする、電話をするなどの方法を考えますが、時にはそのお便りや電話を敬遠する方もいらっしゃいます。そんな時は、お便りの時に、美しい切手、珍しい切手を使うと喜んでくださる方もおられます。そして、求道者と直接お会いするために、教会掃除など教会の作業に参加していただくのも一案です。作業が終わってから楽しく会話しお茶を飲む、できればその後一緒に食事をするなどどもできるようになります。このような様々な形で求道者に接し、受洗の決意が見えるまで温かく見守りを続けます。

4. これらを通じて、私どもは、①求道者の方を愛する、②支える、③勇気づける、④話を傾聴する、⑤信頼する、ことなどが大切だと思います。そして、受洗の決意を促すチャンスを逃さないよう、祈りつつその時を待ち望むことの大切さを覚えます。

「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。」

(テモテへの手紙二 4章2節)

